|  |
| --- |
| 会議の結果 |
| 件　　　名 | 令和６年度田辺市社会教育委員会議　第５回定例会 |
| 日　　　時 | 令和７年１月15日（水曜日）　午前10時15分～午前11時45分 |
| 場　　　所 | 田辺市役所１階多目的ホール１ |
|  | ○社会教育委員出席者12名：　尾崎委員、桐本委員、九鬼委員、久保委員、小山委員、坂本委員、砂野委員、中根委員、西川委員、松場委員、宮本委員、柳川委員欠席者１名：　加藤委員○事務局６名：　野田教育長、狼谷教育次長、那須生涯学習課長、大西生涯学習課参事、下岡生涯学習推進係長、小出生涯学習推進係主査 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）令和６年度生涯学習フェスティバルの結果について

（２）第99回新春初泳ぎ・第41回新春初漕ぎについて

（３）第24回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会について

（４）文化振興課及び南方熊楠顕彰館行事予定について

（５）令和６年度二十歳を祝う式典の結果について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

　　特になし。

４．協議

（１）人材育成事業企画部会について

第６回人材育成事業企画部会において議論した一般公開講座の関係資料（チラシ案やタイムスケジュール等）、各出張講座（田辺高校、田辺工業高校、東陽中学校）のアンケート集計結果について事務局より説明した後、一般公開講座に係る内容を中心に協議を行った。

西川委員から一般公開講座のパネルディスカッション進行案について説明があり、二日後に控える真砂市長との打合せにおいて内容を固める方向性を確認した。チラシや会場配置など、市長との打合せにおいて確認が必要な事項も一定あることから、打合せ結果を踏まえて必要な修正を行うことを確認した。

【質疑応答・主な意見】

議長：まず、事務局から提案のありました一般公開講座についてのチラシについてですが、17日を待たないと決まっていかないことがあると思うんですけれども、趣旨説明のところで、「昭和24年に」ということを入れた方がよいのではというご意見が出ているということで、この点に関してはいかがでしょうか。

事務局：具体的に申し上げますと副議長からいただいた案がございまして、「昭和24年に、社会教育法が制定されて以降、長年にわたり、」というのが最初のこの社会教育法制定後の部分に置き換えたらどうかということでいただいております。

議長：いかがでしょうか。入れた方がわかりやすいという印象はありますが、皆さん頷いていらっしゃるので副議長の案でいきたいと思います。スペース大丈夫だと思いますが、変更は大丈夫ですか。

事務局：大丈夫です。

議長：役割の分担は当日でもよろしいですか。

事務局：当日でも問題ないかと思います。基本的に受付に関しては従来どおりの流れになると思いますし、誘導につきましても、こちらの方へお願いしますというような簡単なものになるかと思います。ただ、２月22日ということで少し寒いかもしれませんので、対応いただける方につきましては少し暖かめの格好をお願いできればと思います。もし、当日役割を決めるということでしたら、防寒もできるような形でご準備いただければと思います。

議長：ありがとうございます。もしかすると外に立たないといけないかもしれないので、当日は暖かい格好でいらしてください。それと配置図ですが、講演のときは二人掛けで机を並べる想定ですか。

事務局：机を並べる想定です。

議長：パネルディスカッションも同じ設定でよろしいですかね。

Ａ委員：簡易ステージはどのくらいの高さがありますか。

事務局：簡易ステージは高さが20センチ程度なので、少し高くなる程度です。

議長：後ろから見えにくいのは仕方ないということでよろしいですか。

Ｂ委員：以前、この会場で同じ配置の研修に参加したことがありますが、後ろからだと前で喋っている人の顔はほとんど見えなくて、声が聞こえるだけでした。できれば顔が見えるといいですが、難しいなら声だけはしっかり聞こえるようにできればと思います。

Ｃ委員：講演のとき、椅子だけで机はないんでしたか。

議長：机はなしです。

Ｃ委員：自分の会社では、演台を前に並べるんじゃなくて、横に置いて半円に囲むような感じに配置することが多いです。囲むような配置にした方がいろんな角度から見れるというのと、列を減らすことができるということでやっています。１つの方法としてご紹介しておきます。

議長：まず、机をどうするか考えましょうか。Ｄ委員いかがでしょうか。何か参加者に書いてもらって見せ合うようなことは考えにありますか。

Ｄ委員：考えていないです。

議長：机なしでも大丈夫ですか。

事務局：アンケートは当日お配りして回収する形になるので、もし机がない状態だと、かなりの数のクリップボードを用意する必要が出てくるので、できれば机を配置して、そこで書いてもらうのがいいかと考えています。ただ、提案いただいた半円の配置にするということであれば、机がない方が配置しやすいと思いますので、検討いただければと思います。

Ｄ委員：投影はスクリーンですか。据付のモニターですか。

事務局：大型のモニターを想定しています。間仕切りごとにモニターが用意されているので、投影資料があるということでしたら、適当な間隔でモニターを配置したいと考えています。

Ｄ委員：後ろからは見えないと思いますが、サブスクリーンでカバーするということですか。

事務局：後ろの方も見えるように、後方にもモニターを設置して投影できたと考えています。

Ａ委員：登壇者が喋っている様子をモニターに映すことも可能ですか。簡易ステージが低いという話だったので、臨場感を出せたらと思いますが。

　事務局：可能かと思いますが、機材を確保できるか確認が必要になります。

議長：机は必要ですか。

Ｄ委員：要らないと思います。金曜日に市長と打ち合わせだと思いますが、会場配置もその際確認しますか。半円の会場配置は確かに有りだと思います。大学でもいろいろな企画の際、資料や登壇者が見えないという問題が出ているので。とはいえ、どちらが喋りやすいかということもあるので、次の打ち合わせで確認しませんか。

　　Ｅ委員：数年前にたなべるで実施した際、聞きやすかったと思うので、同じような形式にするのがよいと思います。

　　　議長：距離が近いと親しみやすいというか、参加しているという実感も得やすいと思います。では、Ｄ先生の提案どおり、案を持って市長との打ち合わせで確認したいと思います。机を配置するかどうかも含め、現時点では保留ということでお願いします。次に、アンケートについて、こちらも打ち合わせ待ちの部分もありますがどうでしょうか。

Ａ委員：今後の活動や仕事に生かせるかどうかっていうことは、一般の方が来られたときにも聞くべき、聞いてもいいことなんでしょうか。社会教育関係者が来て話を聞くことを想定した設問のように感じました。

議長：多分ですが、社会教育関係者がいらっしゃることが多いだろうと想定しています。現状、アンケートでどんな人が来ているか把握できる項目って年代だけなんですが、社会教育関係者とか公民館関係者、どういう組織に属している人が来ているかが分かれば、どのように生かせるかという設問とリンクしてくると思うんですがいかがでしょうか。また、その分類について、所属という聞き方が適切でしょうか。職業は少し違うように思いますが。

副議長：去年はどうでしたか。

事務局：去年、参加者の属性は確認していません。

議長：今回の問題提起として、どのように生かすか聞くのであれば属性が必要かと思っています。

副議長：所属を書いてもらうということでよいと思います。

Ｆ委員：チラシや募集案内は公民館長さんたちに送付しますか。どのように告知するか教えてください。

事務局：周知方法については各公民館や関係施設へのチラシ設置のほか、関係者に対する個別案内を予定しています。案内を送付するのは、公民館長・分館長、教育委員、市議会議員、そういった方々を予定しています。

Ｆ委員：そういうことであれば、関係者の参加が多いと思うので、職業を聞く項目は必要ないかと思います。少し戻るかもしれませんが、どこでこの講座を知った、聞いたみたいなことを聞いた方が来年につながるように思います。

事務局：このアンケートで確認してもいいと思いますが、申し込みの入力フォームで氏名、住所連絡先以外に、それぞれの年代と講座を知ったきっかけについて確認する項目を設ける予定にしております。先に聞くか後で聞くかみたいなところで、どちらでもよいかと思いますが、実施後のアンケートで聞くのであれば、申し込みフォームからは外そうかと思います。

Ａ委員：申込みの段階で聞いた方が、どのくらいの割合の人が関係者か把握できるように思います。アンケートは回収できない可能性もあるので。

副議長：講座を知ったきっかけを聞くというのは広報の効果を拾うところで、それは申込みの段階で聞くのが良いと思います。属性や立場を確認したいというのは、どの立場でどのようなことを考えているか、書いているかということを把握したいというところなので、アンケートで確認しないといけないと思います。ただ、そこまでクロス集計するかという部分もありますが。

　　　議長：社会教育関係者の参加が多いだろうと予想していますが、実際に社会教育関係者の参加が多かったのかということは知りたいポイントの一つなので、確認できるようにはしておきたいと思います。思い込みが実態とずれているようなことがあれば、今後、企画する際に改めないといけないと思っています。社会教育関係者とそれ以外でチェックしてもらうのがいいでしょうか。

副議長：自分が社会教育関係者という認識を皆さん持ってるんでしょうか。

議長：実態の把握が難しいような気がします。

副議長：前回、このアンケート内容でしたが、特に何も気にせず結果を見ていたわけで、そこまで細かく考えていなかったと思います。こんな内容だった、こんなことを考えている人がいる、だったら次こうやってみようという程度でよければこのままでもいいと思います。誰が何を言っているかというのはこれまであまり気にしたことがなくて、それを知って我々がどう生かせるかということも課題としてあるように思います。

議長：人材育成の話なので、活動や仕事に生かせるものがあったか、なかったかということは、設問としては有りだと思います。

Ｃ委員：企業の採用担当からすると、どういう人材が欲しいとみんな思っているかというニーズは聞いておきたい気持ちがあります。参加者がイメージする人材、育てて欲しい人材はどういう人なのかが気になります。こんな人材がこの地域にいてくれたらいいなという部分を、どのようにイメージしているかというのが少し気になりました。バリバリ働ける人とか、リーダーになってくれたらとか、そういうことかと思うんですが、その辺は聞いてみたいなと少し思います。

副議長：まちづくり市民カレッジに参加した人に育ってもらうというのが趣旨なので。

Ｃ委員：今までのイメージでカレッジに参加した人は育つかなと思っていますが、放っておいても育つ人と、早く誰かに育ててもらいたい人とあるように感じています。

　　　議長：Ｃ委員の意見、なるほどと思いながら聞いていました。市長は20年間こういう人材が欲しいと思って人材育成を進めてきた。その話を聞いて、実際その地域に住んでいる人はどんな人材がこの地域に欲しいと思っているのか、ひょっとしたらそこに層があるかもしれないと思いました。だとしたら、Ｃ委員のおっしゃる、講座に来た人がこの地域にこういう人が欲しいんだと思っていると伝えるアンケートになるかなと思ったので、新しい項目としてそれを入れるというのは有りかなと思いました。

Ｄ委員：アンケートの内容はこの場で確定させないといけない問題でしょうか。市長との打ち合わせが終わってからでもいいですか。

事務局：問題ないと思います。

Ｄ委員：パネルディスカッションの進行案も市長との打ち合わせ次第で変更する可能性もありますが、パネルディスカッションの最後に登壇した皆さんに社会教育を通じた人づくり戦略を聞く予定にしているので、聞いている人たちにもアンケートで「あなたが考える人づくり戦略は何ですか。」と聞くというのはどうでしょうか。その際に、どういう属性の人がどのような考えを書いたか知りたいとなると、アンケートで属性を聞いておく必要が出てきます。公民館関係者（館長、主事、運営委員）、学生、一般（会社員、自営業）、その他、無職という感じになるかと思いますが、それさえしておけば、アンケートを集計した際に分析ができるようになります。それも、明後日の打ち合わせでパネルディスカッションの方向性が変わることがあれば、アンケートの項目も変更する必要が出てくるので、明後日の結果を踏まえて確定できればと思います。

議長：パネルディスカッションの進行案について、個人的にですが、未来を見据えた社会教育を通じた人づくりで、どんなテーマに取り組みますかと聞かれた場合に、この社会教育委員会議で今後の方向性、これからの２年間どうするかという話をしていないと思うんです。それなのに、議長という立場でこういうことに取り組んでいきたいと思いますということは非常に言いにくいなと感じました。継続して取り組むことはあると思います。生き生きと生きている地域の大人から、中学生・高校生に対して、田辺の魅力や田辺で暮らすメリットを語ってもらって、一旦外に出たとしても、田辺市や和歌山県に帰ってきて、地域を支える人材になっていただきたいというのは、継続した課題として社会教育委員会議が持ってると思うんです。とはいえ、それ以外の一般公開講座について、どんなことに取り組んでいきますかと聞かれたら、小規模多機能自治に関しては既に社会教育委員会議を離れて自治振興課へ移行していると感じています。だとしたら、それ以降の取り組むことというのを議長として発言を求められた場合にどうだろうかと思うところです。

Ｄ委員：田辺市の社会教育委員会議がテーマを作り上げてきたというのが現実だと思います。最近の状況はどうかみたいな話からテーマが上がってきたというのはあると思うので、答えにくいということはわかります。とすれば、議長ではなく一委員として、例えば、甲斐みのりさんの企画が面白かったということであれば、まちの魅力に目を向けることを学生向けにもっとやりたいとか、ターゲットを学生に限定していく話になっていくかもしれないし、ひょっとしたら、ストレートにどこまでやれるか分からないですが、いろんなところで担い手が減っているので、そこをどうするか。これも川北さんに指導してもらっていたときから、棚卸ししないと絶対に維持できないと言われている話で、棚卸ししてますかと問いかけして、棚卸しをしていないなら改めてやらないといけない、という話に繋がっていくと思うんです。

議長：移住した人が地域に根付くかどうかに強く関心があり、移住してきた人が住みやすいように器としての田辺市を整えたいと思っています。移住する人が少ないにしろ、せっかく移住してきた人が定住するようなまちになる、人を含めてですよ。というのが、自分の中での課題と思っています。ですが、それが社会教育かと言われたときに、ぴったり当てはまっているとは自分の中でも思えてないのが現状です。

Ｇ委員：社会教育委員の代表ではなく、これまで経験されてきた一人の人材として思うところをお話いただけたらいいのかなと思います。

　　　議長：では、最後のところは社会教育委員会議全体、議長としてということではなく、少しファジーな聞き方でお願いできればと思います。

５．その他

（１）令和５・６年度田辺市社会教育委員会議のまとめについて（2/28〆切）

　・資料に基づき説明。

（２）一般公開講座に係る真砂市長との打合せ協議について

　日時：令和７年１月17日（金）午前10時～

　場所：田辺市役所５階市長室

（３）第６回定例会の日程調整について

　・３月26日（水）、27日（木）、28日（金）のいずれかで日程調整する旨を説明。

６．閉会　副議長挨拶